

(様式5)

令和6年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動(保健)
重点課題	健康な生活習慣について児童生徒の意識を高め、好ましい習慣形成につなげる。
現 状	<p>本校児童生徒の普段の姿勢には、猫背、足組み、もたれかかり等の様子がみられる また、学習時や家庭での余暇活動の中で ICT 機器を利用することが増えており、その際の姿勢も意識する必要がある。そこで、昨年度より「良い姿勢につながる身体づくり」として保健指導に取り組んできた。良い姿勢が心身の健康に関係することを伝えるとともに、学校生活の中で（特に着席時）自分の姿勢を意識する機会を設けた。</p> <p>良い姿勢の定着には自ら意識することや姿勢の保持に必要な「身体づくり」が必要である。そこで、「身体づくり」の観点から、学校、家庭への啓発とともに児童生徒が日常的に取り組める「良い姿勢と身体づくりのためのエクササイズ」の推進を行うことにより、体幹強化やけがをしない柔軟性等、健康な身体づくりの習慣化を図りたい。</p>
達成目標	<p>「良い姿勢につながる身体づくり」啓発のための取組</p> <p>年間5回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が自身の姿勢や身体について知り、身体づくりにつながる活動を促す。</li> <li>児童生徒が、運動に継続して取り組む期間を設定する。</li> <li>良い姿勢やエクササイズの取組場面を取り上げ、掲示や表彰を行う。</li> <li>姿勢や身体づくりに関する資料や刊行物の紹介等の情報提供を行う。</li> <li>家庭でできるエクササイズの紹介や長期休業中の家庭での取り組みを促す。</li> </ul>
達成度	<p>6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「からだづくり週間」での運動の紹介、推進（2回）</li> <li>「からだづくり写真コンテスト」の実施（2回）</li> <li>長期休業中の家庭への啓発（2回）</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い姿勢の紹介および姿勢の心身の健康への影響等を掲示物や校内放送で伝えた。</li> <li>「からだづくり週間」として、意識的に運動する期間を設定した。参考となる運動の一覧表や記録表を作成し取り組みを促した。活動の写真や、記録表のランキング発表等により意欲の向上を図った。</li> <li>長期休業用に運動の項目を加えた生活習慣記録表を配付し、家庭での取り組みを促した。</li> <li>年度初めに教職員から聞き取った支援等に関わる質問を理学療法士、作業療法士に回答をしていただき、教職員間で共有した。</li> </ul>
評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「からだづくり週間」や写真コンテストの実施等により、児童生徒の運動への興味を高める活動を仕組むことで、約8割の学級の児童生徒が運動に取り組み、継続することができた。</li> <li>教員研修では姿勢や身体の使い方に関して具体的なアドバイスを受け指導に生かすことができた。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組が子供に分かりやすく、全校一丸で取り組んでいる点が良かった。生活習慣の形成には小さい頃から始めることが有効である。毎日の帯の時間の活用や家庭での取組なども含め継続することが大切である。</li> <li>運動を継続することは、卒業後の生活にもよい影響を与える。子供自身が運動や良い姿勢の必要性を理解できるようになるとよい。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が、良い姿勢や運動の必要性を理解し、運動に主体的に取り組むための保健指導の在り方を検討していく。</li> <li>今年度作成した資料に改善を加え活用を促すとともに、児童生徒の将来を見据え、家庭にもつながる取組となるように運動習慣の形成に向けた取組を継続していく。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	災害時における安全指導の充実を図る。	
現 状	<p>本校は、土砂災害警戒区域に指定されている。学校防災（火災・地震・土砂災害）のマニュアルを作成し、年3回の災害対策避難訓練を実施している。また、学部別授業参観日の際には保護者にも参加してもらい、引渡し訓練を実施し災害に備えている。</p> <p>児童生徒の実態が多様化し、教職員の入れ替わりも多いことから毎年度避難訓練を通して避難方法の確認を行い教職員間で共通理解を図っているが、昨年度まで感染症に配慮した形での訓練を行っていた。令和6年1月の能登半島地震において本校校舎南側に崖崩れが発生し校舎の一部が損傷した。また6月には新小学部棟（第3小学部棟）が完成するため、新たに避難経路等を作成し、教職員及び児童生徒が混乱なく避難行動をとれるようにする必要がある。そこで、これまでの災害対策避難訓練を見直し、教職員の安全指導の理解を深めることでリスクマネジメントの強化を図りたい。</p>	
達成目標	①災害時における本部設置の仕方および教職員の初動対応を踏まえた避難訓練を実施した回数	②新小学部棟（第3小学部棟）完成に伴う避難経路の確認の実施
	年3回以上	各学級1回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新小学部棟（第3小学部棟）を含めた避難経路図完成後、教職員に周知を行う。</li> <li>・避難訓練の前に各学級で児童生徒と共に避難経路の確認を行う機会をもつ。</li> <li>・災害の際の本部の設置の仕方について避難訓練を通して事態に即して対応できるよう確認を行う。</li> <li>・児童生徒の対応をしていない職員の本部参集等、初動対応について全職員の意識を高める。</li> <li>・学校危機管理マニュアルの見直しを行い、それに基づいた避難訓練を実施する。</li> </ul>	
達成度	①初動対応の行動確認を行った訓練 ・防災避難訓練の実施 2回 ・土砂災害による避難訓練の実施1回 ・災害時の際の引渡し訓練各学部1回	②児童生徒とともに校内の避難経路の確認を行った回数
	6回	各学級2回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難する際の、本部設置の仕方や職員の本部参集前後の動きについて実施計画書を見直し、職員に周知を行った。</li> <li>・第3小学部棟の完成後に、作成した新避難経路図をグループウェアで職員に周知した。教室ごとに、児童生徒と完成前の避難経路との違いを確認しながら、新たな避難経路をたどらせた。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練では、起災後速やかに本部を立ち上げ、参集可能な職員が本部に集まる動きを全職員に周知することができ、本部に職員が参集することができた。</li> <li>・第3小学部棟の完成後、新避難経路図による児童生徒との校内の避難経路の確認については、第3小学部棟に移った学級で100%行った。棟外の学級においては、紙面や口頭での確認にとどまり、実際の避難経路の確認は、2回の防災避難訓練でのみ行った。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時は教員の的確な状況把握や状況に応じた対応が必要となるため、いろんな状況を想定しておき、訓練ができるとよい。</li> <li>・障害のある子供は避難生活の継続が難しいので、避難後の動きについても想定すること、また支援学校には2次避難場所としての役割を考えておいてほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな事態に対応できるノウハウを蓄積し、それぞれの状況を想定した避難訓練を行っていく必要がある。</li> <li>・実際に災害後の避難所での生活を想定し、必要な備蓄品や環境を整え、障害のある子供たちが安心して避難生活を送ることができるように考えていく必要がある。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（教育相談）	
重点課題	地域支援に役立つ教材や資料等の整理と活用	
現 状	<p>教育相談部では、地域の小・中学校等への教育相談の資料とすることを目的に、以前から自作の教材等を紹介する『教材ファイル』を作成している。令和2年度には相談内容を踏まえて、国語や算数・数学、自立活動の教材を追加して内容の充実を図ったが、その後は教材や資料等の追加をしていない。</p> <p>近年は小・中学校等の教育相談の際には、特別支援教育コーディネーターが自身で収集・作成した資料を提示することが多く、『教材ファイル』を活用することは少なくなっている。</p> <p>また毎年度、小・中学校等の教員が来校する学校説明会や学校見学会、特別支援学級等新任担当教員研修会等の機会に、教材や参考図書、使用方法等の資料を収集し展示しており、展示後は年度ごとに『教材紹介』として保管しているが、特に活用が図られていない。</p> <p>そこで、今まで収集及び使用した教材や資料を整理して、有効活用ができるよう『支援資料ファイル』としてまとめ、小・中学校等への支援に役立てたいと考える。</p>	
達成目標	①教育相談部で管理している教材や資料の整理	②小・中学校等への教育相談において『支援資料ファイル』を持参し提示等を行う割合
	年間3回以上	75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>『教材ファイル』や『教材紹介』及び教育相談部で管理している教材や資料を「国語」「算数・数学」「自立活動」「視覚支援」等に分類して整理する。</li> <li>分類別のファイルにしたり、必要な資料のみ持ち出せるようにしたりする等、ファイリングの仕方を工夫する。</li> <li>小・中学校等への訪問相談の際に『支援資料ファイル』を提示し、有効な支援について提案・紹介する。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の洗い出し 2回</li> <li>分類、複写、印刷、ファイリング 4回 計 9回</li> <li>データのPDF化 1回</li> <li>画像撮影 1回</li> <li>電子データ化 1回</li> </ul>	訪問相談 6件 提示を行った回数 6回  100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>過年度の訪問相談記録や教育相談部で保管していたものから今後も有効な資料や学習プリント類を抜き出し、各教科等別に分類した。</li> <li>『教材紹介』として保存していた7年分のデータをPDFファイルにし、作成年や教科等名、内容のキーワードが分かるファイル名を付け、電子データ上でも検索しやすいようにした。</li> <li>教育相談部で管理している書籍や市販教材を整理し、一覧を作成した。書籍については題名だけではなく、表紙画像も入れ、内容の概要が分かるデータとした。</li> <li>上記のように分類・整理・作成した各種資料を『支援資料ファイル』として「資料〈国語〉」「資料〈算数・数学〉」「資料〈自立活動〉」「資料〈その他〉」「教材・教具」「書籍・市販教材」に分けてファイリングした。各ファイルはカード型のデータベースとして容易に活用できるようリングファイルにした。</li> <li>小・中学校等への訪問相談の際には、整理した『支援資料ファイル』の中から選んだ資料を提示したり、新たに収集して提示した資料を『支援資料ファイル』に追加したりした。</li> </ul>	
評 価	A	教育相談部で管理している各種資料を小・中学校等への支援に活用しやすいように分類・整理することができた。全て紙媒体にして必要なものをすぐに取り出せるようにファイリングすることで、教育相談に使用しやすくなった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援資料ファイルにまとめた資料を速やかに電子データ化し、教育相談に活用しやすいようにするとよい。</li> <li>本校の特別支援教育に関する専門的知見を小・中学校等のニーズに合うよう提供しセンター校としての役割を果たしてほしい。保育所等には就学先を選択する際の情報や幼児への関わり方等について伝えてほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談に有効な資料を今後も収集し、支援資料ファイルに追加していく。</li> <li>支援資料ファイルの資料は、一部を除き現在は紙媒体で管理しており、より利便性を高めるために電子データ化を進め、小・中学校等への情報提供に活用する。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）